

3

2025

E-mail kobun@hera.eonet.ne.jp

http://www.doctors-attention.com/

●発行人/西本虎文 ●発行所/〒665-0011 宝塚市南口1-11-4 株式会社協同企画サービス Tel.0797-78-1875

●通巻第531号 ●発行日/発行月1日 ●印刷所/株式会社島之内印刷所

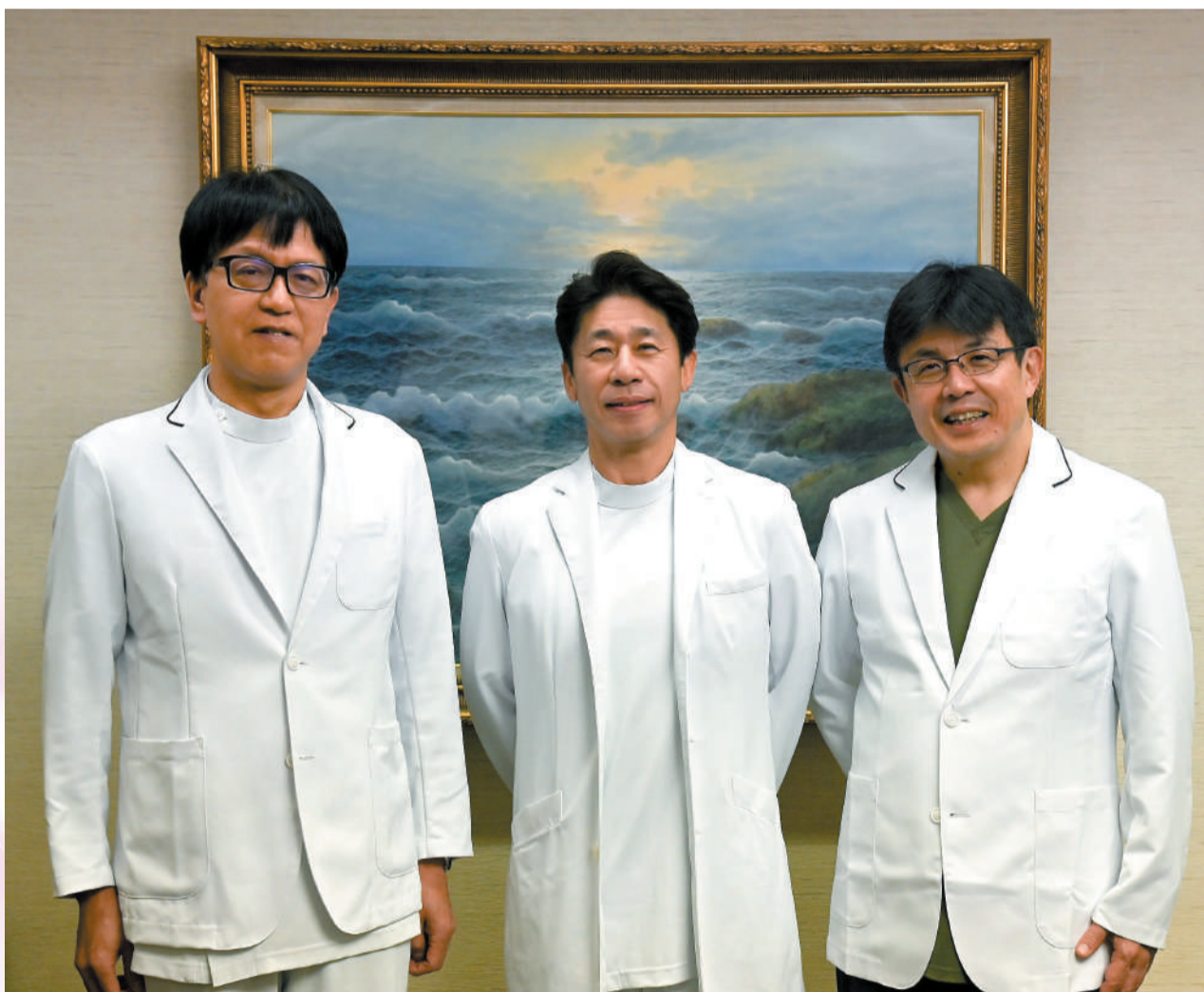
©不許転載

新しい医療文化の創造

信頼でつなぐ
You&I

Doctors' Attention

ドクターズアテンション 関西版・首都圏版



撮影/中野洋征(中野写真事務所)

社会医療法人 生長会

府中病院
院長 **西川 慶一郎**

泉大津急性期メディカルセンター
院長 **竹内 一浩**

泉大津急性期メディカルセンター
院長代理 **田口 晴之**

「愛の医療で、人に、地域に、安心を」
泉州北部地域に最適な医療を提供するために
府中病院と泉大津市立病院が再編統合

P2~P3

ドクターズアテンション

検索

ドクターズアテンションがネットで読めます。

ドクターズアテンションは国会図書館、中之島図書館に保存されています。 Doctor's Attentionは独立した機関です。

「愛の医療で、人に、地域に、安心を」

泉州北部地域に最適な医療を提供するために 府中病院と泉大津市立病院が再編統合

社会医療法人生長会 ● 泉大津急性期メディカルセンター

院長 竹内 一浩
院長代理 田口 晴之
● 府中病院 院長 西川 慶一郎

2024年12月、泉州二次医療圏の地域医療構想の一環として、府中病院と泉大津市立病院は病床・機能を再編・統合・分化し、高水準の医療提供が可能な高度急性期病院として「泉大津急性期メディカルセンター」が新設され、「府中病院」は回復期病院へ、泉大津市立病院は「泉大津市立周産期小児医療センター」へと役割を変えました。それぞれが専門性を高め、安全で安心な医療の提供をめざしています。泉大津急性期メディカルセンターの竹内院長と田口院長代理、府中病院の西川院長にお話を伺いました。

それが国の進める地域医療構想であり、それぞれの地域で適切な医療を提供するための体制づくりが最重要課題です。この地域にはどういった医療体制が適切かを考えて今回の再編統合が発案されました。

この辺りは泉州二次医療圏の泉州北部地域になります。現在、泉大津急性期メディカルセンターと泉大津市立周産期小児医療センター（元の泉大津市立病院）がある泉大津市、府中病院のある和泉市、そして高石市と忠岡町を含む、堺市と岸和田市に挟まれている地域で、いわゆる大病院がなく、中小の病院が連携して地域医療を担ってきた。泉大津市立病院と府中病院、そして和泉市立総合医療センター（2014年より医療法人徳洲会が指定管理者として運営）が近接しており、同じような規模・機能の病院でしたので、泉大津市立病院と府中病院の2病院が、それぞれの機能を活かして「泉大津急性期メディカルセンター」、「府中病

院」、「泉大津市立周産期小児医療センター」の3病院に分化・再編することにになりました。全国的に見て非常に珍しいケースだと思います。この背景には各公立病院単体では経営が厳しく、各地で公設民営の病院や、民間による指定管理の公立病院が増えている状況があります。3病院による新体制は、昨年12月1日にスタートして、各病院が各々の役割を果たすべく頑張っているところです。

新設された泉大津急性期メディカルセンター（以下メディカルセンター）の特色から教えてください。

府中病院は、高度急性期・急性期医療を中心としており、特にがん医療、救急医療、災害医療を大きな特色としています。病床数は300床、病床稼働率は90%以上、平均在院日数が11日前後です。から、いい形での滑り出しができたと思っています。診療科目は26科、府中病院にはなかった心臓血管外科等を新設しました。

手術部門ではロボット手術など高度な手術を行うハイブリット手術室を含む8室と脳・心血管治療室を3室設け、さらに内視鏡部門では透視下処置専用室を含め検査



ハイブリット手術室



サイバーナイフ

室を8室設けました。集中治療室はICU（集中治療室）8床、HCU（高度治療室）12床、SCU（脳卒中集中治療室）6床を設け、適正で安全な高度専門医療の提供を可能としました。

所は頭部・頭頸部から、脊髄、肺がん、肝がん、腎がん、膵がん、前立腺がん等々全身に使うことができる汎用性の高い治療です。

府中病院には「アイセンター」が併設されています。2018年に開設された泉州で唯一のアイセンターで、年間約2500件の手術を行なっています。回復期に加えて、このアイセンターや透視センターがあるのが府中病院の特色で、高齢者のニーズに応えられる病院です。

低侵襲がん医療の提供 南大阪初 サイバーナイフ導入

がん医療においては、手術支援ロボットダ・ヴィンチや最新の放射線治療技術を活用し、治療の負担を最小限に抑える「低侵襲がん医療」を提供します。患者さんのQOLを最大限に保ちながら効果的な治療を目指し、個別化された治療計画を提供します。また大阪府がん診療拠点病院として、治療のみならず、がんの早期発見や予防、がん患者支援、緩和ケアにも積極的に取り組みます。



西川 慶一郎

田口院長代理はメディカルセンターでどのような役割をされていますか。

救急部の先生方と協力しながら救急を受けています。メディカルセンターになり、救急要請が府中病院の時の約1.5倍に増加しております。1月では1000件を超えています。最新の医療技術と設備を導入することで、24時間365日対応の迅速で質の高い救急医療体制を構築し、すべての患者さんに対して安全かつ効果的な治療を提供できるよう努めています。特に



田口 晴之

新病院の開院おめでとうございます。再編統合に至った経緯から教えてください。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

2040年に向けて人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口減少を見据え、地域に質の高い医療を提供できる体制づくりが求められています。

◆竹内 一浩(たけうち かずひろ) プロフィール

- 1988年 3月 大阪市立大学医学部医学科 卒業
- 1988年 6月 大阪市立大学医学部第一外科 臨床研修医 入局
- 1990年 6月 兵庫医科大学 救命救急センター 外科 入職
- 1990年12月 大阪市立大学医学部第一外科 入職
- 1991年 4月 馬場記念病院 外科 入職
- 1992年12月 大阪市立大学医学部第一外科 入職
- 1996年 5月 馬場記念病院 外科 入職
- 2005年 4月 社会医療法人生長会 府中病院 外科部長 入職
- 2008年12月 同臨床研修室室長補佐兼任
- 2011年 4月 同副院長、外科部長、臨床研修室室長兼務
- 2015年 4月 同院長
- 2024年12月 泉大津急性期メディカルセンター 院長

・資格など

- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本外科学会認定医・専門医
- 近畿外科学会評議員
- 身体障害者法指定医(膀胱・直腸機能障害、肝機能障害)
- 日本医師会認定産業医
- 臨床研修指導者養成課程講習会(四病院団体協議会)
- 難病指定医
- 医学博士

◆田口 晴之(たぐち はるゆき) プロフィール

- 1995年 3月 大阪市立大学医学部医学科 卒業
- 1995年 5月 大阪市立大学医学部第一内科 臨床研修医 入局
- 1996年11月 馬場記念病院 循環器内科 入職
- 2000年 7月 ベルランド総合病院 心臓病センター 入職
- 2008年 4月 大阪掖済会病院 心臓血管内科 入職
- 2016年 4月 社会医療法人生長会 府中病院 循環器内科部長
- 2018年 4月 同副院長、循環器内科部長
- 2020年 3月 同副院長、循環器内科部長、入院サポートセンターセンター長
- 2020年 4月 同副院長、入院サポートセンターセンター長、循環器内科部長、医師研修センター専門研修室室長兼務
- 2024年12月 泉大津急性期メディカルセンター 院長代理、循環器内科部長、医師研修センター専門研修室室長兼務

・資格など

- 日本循環器学会循環器専門医・近畿支部評議員
- 日本高血圧学会認定専門医・指導医
- 日本心血管インターベンション治療学会認定医・心血管カテーテル治療専門医・施設代表医
- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・評議員
- 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士
- 日本医師会認定産業医
- 臨床研修指導医養成のためのワークショップ
- 身体障害者法指定医(心機能障害)
- 難病指定医
- 医学博士

◆西川 慶一郎(にしかわけいいちろう) プロフィール

- 1987年 島根医科大学 卒業
- 大阪市立大学医学部泌尿器科 臨床研修医
- 1992年 大阪市立大学大学院 卒業
- その後 大阪市立北市民病院を経て
- 1995年7月 生長会府中病院 泌尿器科・人工透析センター 臨床医
- 2012年 府中クリニックで健診事業
- 2022年 府中病院へ復職
- 2024年12月 回復期、地域支援病院となった 府中病院 院長

いろいろな業務を経験させていただいたことを活かし、地域の方々に望まれる病院となるべく「そのひとらしく-be yourself」を掲げて日々精進している最中である。



- 泉大津急性期メディカルセンター
大阪府泉大津市我孫子97-1
- 府中病院
大阪府和泉市肥子町1-10-17

竹内 メディカルセンターでは今



竹内 一浩

医療DXに関してはこのよう
な状況ですか。

脳・心血管疾患の対応を強化したことで、今まで岸和田市や和泉市の方にまで分散していた泉大津市の救急をメディカルセンターで受けられると考えています。今後は泉州北部地域の救急医療における中心的な役割を担っていきます。

医師研修センターの専門研修室長も兼務しておりますが、毎年メディカルセンターでの初期研修医が6名、応募も多くフルマッチしております。また卒後3-5年目の若い専攻医の先生や多くの科のスタッフとともに救急医療に取り組んでおります。

地域活性化のための「街づくり」

病院による「街づくり」ということはどのように考えておられますか。

竹内 生長会の方向性の中にも「街づくり」という言葉が謳われています。医療介護のインフラを地域に貢献できるようにしていきたいと考えています。泉大津市では市長が「街づくり」に力を入れておら

回かなり取り入れることができたと思っております。例えば薬剤部では自動の調剤システムを採用しましたし、検査科でも自動検査システムを導入しました。カルテはもちろん電子カルテで両病院のカルテが参照できるようになっています。効率的な医療を進めるためにスマートフォンも導入しています。生長会の方針が積極的にDXを進めていくことですので、経費のかかることではあります。新しい病院では積極的に導入しました。

れますので、行政や地域の企業とも連携し、地域が活性化するような「街づくり」に貢献していきたいと思っています。

災害については、どのような対策をされているのでしょうか。

竹内 泉州地域では、南海トラフ地震の発生による甚大な被害が想定されており、医療機関には大きな役割が求められます。メディカルセンターは、災害時にも医療機能を維持し、地域の皆さんの命を守る体制を確立します。災害時の危機管理体制としては、府中病院時代から事業継続計画(BCP)を策定し、災害時に対応できるように、職員に教育と訓練を行ってきました。

「連携」がこれからはますます重要になってきますね。

竹内 メディカルセンターは紹介重点医療機関であり、地域の先生方から紹介をいただくことが大切です。また、急性期の治療を終えた患者さんの受け入れは府中病院だけでは難しいですから、地域の医療機関との連携が欠かせません。これまで地域医療構想を進める中で、この地域に必要な病床数や医療機関の役割など、ある程度枠組みが明確になってきました。次は、わが国の高齢者人口がピークを迎える2040年に向けて、その枠組みを具体的にどう動かしていくかを考えなければなりません。それには、それぞれの医療機関が今まで以上に連携を深め、一体となって地域に最適な医療を提供することが求め

練を通じて、災害対応能力の強化に取り組めます。さらに、地域住民への防災教育と啓発活動を推進します。

府中病院 ICU、HCU、急性期、地域包括ケア、回復期リハ 380床	泉大津市立病院 周産期、小児、急性期 230床
--	-------------------------------

新3つの病院の協力体制に

回復期・慢性期  府中病院 (民営) ※府中病院をリニューアル 地域包括ケア、回復期リハ 167床 (2025年3月1日時点 80床)	急性期  泉大津急性期メディカルセンター (公設民営) 高度急性期、急性期 300床	周産期・小児  泉大津市立周産期小児医療センター (公設公営) 周産期、小児 82床
--	---	---

●泉大津急性期メディカルセンター 診療科

- 内科／消化器内科／循環器内科／呼吸器内科／血液内科／内分泌内科／脳神経内科／外科／消化器外科／肝胆脾外科／呼吸器外科／心臓血管外科／乳腺外科／整形外科／脳神経外科／形成外科／泌尿器科／婦人科／皮膚科／精神科／放射線科／放射線治療科／リハビリテーション科／救急科／麻酔科／病理診断科

られます。メディカルセンターと府中病院が連携の核となつて、その役割を果たしていければと考えています。

これからの病院医療のあり方のモデルケースとも言えますね。今後に期待しています。ありがとうございます。